

日本、韓国の諸分野交流の意義
生涯学習フォーラム・日韓研究・実践交流会の開催にあたって

和歌山大学長 山本健慈

このたびの「生涯学習フォーラム」を、日韓研究・実践交流会として開催できますことは、本学のみならず、また生涯学習という分野にとどまることのない重要な意義をもっていきます。ご承知のように日本と韓国は、歴史上長い交流と交渉の関係にありながら、近年はとくに政治レベルでの交流・交渉が困難となり、それがひいてはさまざまな交流に障害を生じさせています。このような状況ですからこそ、学術・文化レベル、市民レベルでの対話と交流の蓄積が重要であり、その広がりと深まりこそが、今日の障害を克服する道だと思ふからです。

その意味で、この企画の実現に寄与していただいた関係者のみなさんに厚く御礼を申し上げます。とりわけ小林文人東京学芸大学名誉教授、現在本学に滞在研究をされているヤン・ビョンチャン韓国公州大学教授に心より感謝を申し上げたいと思います。

小林教授は、長く社会教育研究を通じて韓国との交流を続けられ、また多くの方々と友情を築いてこられました。またヤン教授は、韓国側のパートナーとして大きな役割を果たしてこられました。私は、小林教授などが研究・実践交流の一環として企画された韓国向け出版『日本の社会教育・生涯学習』(2010年)に「大学と生涯学習にかかわる事業の展開・和歌山大学の事例から」を書き、交流の一端を担わせていただきました。(日本語版は2013年出版)

その論考の最後に「地域社会教育・生涯学習の展開における大学の役割」として以下のように書きました。

「今日の日本政府の諸政策、とくに小泉「構造改革」路線のもとで地域における産業、生活、文化、教育の衰弱は加速されている。これに抗して地域の持続可能な発展を模索する試みは住民レベルで広がっている。一方小泉内閣後の安部、福田内閣は、「地域格差」の広がりへの批判に対応し、「再チャレンジ」「地域再生」などの施策を掲げ、これらの事業開発とその担い手づくりを大学等に期待するプランを実施しはじめている。

しかし地域の持続可能な発展は、地域住民および自治体・NPO等が持続的に地域発展学習に取り組み、地域をデザインする力量を獲得する以外にはない。この地域の試みにとって、地方大学の知的資産・人的資産はもっとも頼りになる存在でなければならない。その意味で、「大学と地域生涯学習」にかかわる事業の開発は、地域・自治体の持続可能な発展のためにも、地方国立大学の持続可能な発展にとっても不可欠なのである。」

「生涯学習フォーラム」は、本日の主催者である本学地域連携・生涯学習センターの前身、生涯学習教育研究センター設置の際、センター長であった私が、大学が生涯学習というアプローチから地域をエンパワメントする目的で企画したものです。

韓国の大学においても、平生教育という名のもとに、多様果敢に地域をエンパワメントする実践が行われております。

「生涯学習フォーラム」での交流を通して、相互の実践への学びが行われ、人と人の結び合いと相互理解が深まり、未来に向かった両国の友好が発展することを願っております。